

令和2年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 第1回研修会

日時 2020年10月24日
会場 小平市中央公民館
講師 安藤聡彦 埼玉大学 教育学部教授 環境教育学、社会教育学専攻
テーマ 緊急事態宣言後の公民館のあり方
～公民館の基本活動の本質を求めて～
対象 公民館運営審議会委員並びに利用者、職員、及び、都内社会教育関連施設利用者・職員等
参加者 69名

(1) はじめに： コロナ禍が「学びの場」もたらしたもの

大仰なタイトルですが、事務局が決めたもので変えられません。皆さんの方がいろいろ考えておられると思いますが、その思考の整理に役だてるならば、幸いです。

公民館の話に限らないかとおもいますが、学びという観点に即してお話したいと考えています。

大学では、ゼミがようやくこの水曜日に初めて対面でできました。それまではオンラインでおこないました。新入生には深刻な困難があり、1/3は実家に滞在していました。九州から北海道にまたがりました。オンラインでは、伝えられることと、伝えられないことがあります。ただ一つのメリットは、朝飯を料理しながらでも参加できることでした。

3, 4年生の就職問題は深刻で、学習でも落ちこぼれもでています。ただ、学習意欲をなくしたわけではなく、学習感覚も鋭くなっているようです。

今、付属中学の校長を兼ねていますが、休校もあり、さまざまな問題に直面しています。中学ではかわいそうなことが多々あります。学校行事は削減され、生徒たちの出番が減り、表現の場が無くなりました。また、特に1年生は先輩を見て育っていくが、今年はダメです。家庭も親子間トラブルが増え、生徒の生活の根っこがゆらぎ、学校へのクレームも増え教師も迷っています。子供たちの生活の根っこのところが失われてしまいました。

その中でもポジティブな面もあり、いろいろ工夫して新機軸を打ち出したりしています。一例が生徒によるラジオドラマの全校放送です。人間活動への深い洞察もみられます。新たな学びへの挑戦といったものも感じられます。

これらから、大きくいえば、これからどうやってポジティブなものを育てていくかを考える必要があります。

(2) コロナ禍は公民館に何をもたらしたか？

この件は皆さまの方がいろいろ痛感されることも多く、詳しいと思いますが、このコロナ禍がもたらしたものについて考えていくことが重要です。

社会的インパクトとしては、公民館の利用制限・停止による利用主体の縮減があり、また再開する・しないにあたっての苦労も大きかったでしょう。また、利用制

限も課されました。この間、活動組織が無くなった例も多いです。特に老人サークルでは解散した例が多くみられます。会わないでいると、どうしても距離が生じ、キズナがゆるんできて、問題が大きくなります。社会教育の基盤が揺らいでしまいます。

経済的インパクトとしては、一般に各自の仕事に影響がひろがり、生活費の問題が生じてきます。家庭の揺らぎが生じます。公民館に関しても、老人の活動が低下するなど、財政収入への打撃があり、予算減への動きが出るでしょう。地方財政の赤字で、指定管理の方向が避けられない面があり、更に、埼玉でも、指定管理を依頼しているところで、予算が厳しくなっています。

公民館の社会教育施設としての維持が難しくなっており、教育委員会の社会教育から、首長部局の生涯教育への移行が進んでいます。そこで、公民館活動の蘇生について考えていきたい。

(3) 社会の中に入り込む公民館：アウトリーチとしてのオンライン

公民館の再生を目指す動きとしてオンライン配信が重視され、予算が厳しいなかでも推進されています。これには功罪両面がありますが、良い点は、公民館だけだと利用者が限られる傾向がありますが、オンライン化で、家庭の中に入っていき、手軽に参加できるようになります（例えば、遅くなっても欠席しなくてすみ、食事を作りながらでも参加可能）。教育の観点から、どうかという議論もあるが、料理をしながらでも参加できるという点に意義があるのではないか。

他には、公民館の機能を「おうち」に届けた例があります。毎日新聞 8 月の記事ですが、e 公民館のいろいろな動画配信で、これはさいたま市馬宮公民館の例です。始めは、館長の岩崎さんが個人的に始めたものですが、市も応援しています。馬宮公民館の HP に掲載されていますが、動画（例：公民館の歴史、防災セミナー等）が発信されています（ここで、事例をみせる）。

オンラインだと、伝わるものも多いですが、何かもどかしい。広くアプローチできるものの（2000 人からのアクセスもあり、すくないものでも数百人）伝えられないものもあり、最終的には現場・本物が重要です。

岩崎さんからのメールでも、在館しなくとも、何時でも何処でもどなたでも、というかたちで、多数がアクセス可能になったと言っています。また職員からの発信も可能です、ただ、カルチャーセンター化しないような何かアクションにつながるテーマを探すのが難しく、また IT 格差もあり高齢者の活動支援も難しいという面もあります。

また、オンラインの例として、個人美術館（原爆関連の展示が多い丸木美術館）の例があります。コロナ禍で臨時休館に追い込まれて、閉館のうきめにありました。辺鄙な所にあり、アクセスが難しい所にあるのですが、新聞記事・テレビ番組での紹介支援が集まりました。また、返礼として、オンライン観賞会が開かれました。

（レジメ中にこの件の記事あり。NHK ニュースも紹介）。

オンラインのアウトリーチ性は有用ですが、人とのふれあい等、公民館本来の機能も重要です。

(4) 公民館の「場所」性を高める

公民館の三つの側面として

- ① 地方自治法による公的な施設であり、
- ② 社会教育法にのっとった社会教育施設ですが、
- ③ 公民館ならでの学びの場としての「場所」性、
があります。

「場所」性とは、に注目すると、

- ・物質的要素：外観、部屋の配置、設備、備品等が重要であり、
- ・人間的活動：学習、読書、おしゃべり等の場所であること、
- ・意味：狭い意味での学習だけでなく、人の充実感、楽しみ、開放感等を助成するもの、

を含み、学習権の保障とは、これらの諸要素が複合的に絡み合っただけで成立するものではありません。今みると、やはり必要なものです。

ここで、一つの例として、埼玉の第9条俳句問題を取り上げてみます。狭くとると、俳句の学習で、俳句を詠んだというだけのことですが、作者の70代女性は、夫を亡くしてふさぎこんでいたのが、趣味の友達にさそわれて久しぶりに外へ出てデモに会い、一緒に歩いてみたのが社会復帰のきっかけになり、それが俳句になった、ということで、必ずしも政治的なものでは無かったということだそうで、この文脈で公民館について考える一助になると思われま

*公民館の「場所」性を高めるには、

- ・気軽に立ち寄れるスポットの設置（フリースペース、カフェ、ギャラリー等）
- ・利用歴史の可視化（展示場所の設置、或いはイベント等）
- ・寛容な空間であること（居心地の良い空間）
- ・キーパーソンとしての職員の存在
などが考えられます。

「場所」性とは、単なる場所ではなく、色々な活動を含むものであり、もう一度公民館の役割を深め、発信していくことが重要です。寛容な空間であることが大事です。その意味で、職員の役割が重要です。

(5) まとめ：場所性を高めつつ、社会の中に入り込む

*「母親の見た教科書」（小平・教育を考える母親の会、1971年）から半世紀。今、このような学習グループが成り立ちうるだろうか？（藤岡貞彦「社会教育実践と民衆意識」、草土文化、1977年）

恩師である藤岡先生は、教育を考える母親の会、の活動を“民衆大学”の例として高く評価し、公民館でもこの活動を学ぶべし、としています。現在、その可能性は半々ではないかと思えます。

*他者をそして自分を、追い詰めてしまう現代の親たち、という問題を考える必要があります。

*これらの問題を考える上でも、場所性を高めつつ、社会の中に入り込む公民館の役割はすこぶる大きいといえます。

以上を勘案し、緊急事態宣言後の公民館のあり方は、オンライン等で、家庭や社会に入り込むこと、加えて場所性を高め、人と人とのふれあいを強調することにあると思われる。



(質問、意見交換)

1、公民館有料化についての質問 小平市利用者

小平市の公民館は現在使用料がほとんど100%減免され無料ですが、公共施設の見直しで減免率を見直して、早く言えば有料化の話が出ていますが、先生は どうゆうお考えを持っていますか。

講師

これに対し 良いとは思わないのですが、どう向き合っていくかだと思います。有料化の話をスーッと通すのではなく、いろいろな形で抑えていくことだと思います。有料化は公民館の大きな変更の一つで 使う人達がいろいろと調べて考えていくこと、様々な形で話し合っていくことが大事なことかと思っています。

2、公民館のフリースペースの使い方 狛江市公運審

狛江市では 公民館の改築計画がありまして今いろいろと検討しています。先生のお話にもありましたように 公民館のフリースペースの使い方、良い例と失敗した例があったら教えていただきたい。

講師

川崎の市民館でコミュニティーカフェを作って、どうゆう新しい人を集めるかの講座をして、今実験をしています。また川崎市麻生区の市民館(新百合ヶ丘の近く)でも同様な取り組みをしています。 そうゆうところに行つて、話を聴くのも一つかと思っています。

3、感染予防に対して公民館の役割 東大和市公運審

今コロナ禍で 感染予防に対して公民館としての役割の様なこと、何かできないですか。

講師

難問ですね。ここにいる皆様のご意見、見解は どうですか？

小平市公運審

小平市では、市民の皆様が安心、安全に公民館に来られるように 飛沫防止パネル(パーテーション)を講師の前にあるような物を各分館に用意しました。囲碁とか、音楽関係でもそれを使っています。また先ほどカフェの話がありましたが、音楽コンサートの後に鈴木花カフェをやっていますが、これにもテーブルの上に置いて使っております。

講師

今、具体的なお話が出ましたが、世の中に予防策がいっぱい出ていますね。また感染症は 古くからあるので多くの小説の中 例えば「神のペスト」とかダニエルデフォの「ペストの記憶」等 300 年前に書かれているのですが、その予防策が出てきています。読まれると良いかと思います。驚くほど今と同じです。それとノーベル賞作家でサラマーゴの「白の闇」 そうゆう本を皆で読んで語り合うのはどうでしょうか。感染防止の即効薬にはならないのですが、ヒントが得られるかと思います。

東大和市公運審

度々で申し訳ございませんが、いま小平市の公民館の話を伺ったのですが、密になるサークルってありますよね。合唱とか音楽、囲碁サークルとか 小平市では どんな制限があるのですか。

小平市公民館職員

現在 全国公民館連合会のガイドラインに沿って感染防止策を行っています。基本的なことですが換気をする事です。扇風機、サーキュレータ、網戸、小型簡易パーテーション、検温器、消毒アルコール等を設置しています。また部屋の定員を50%にしています。

国立市公運審

公民館の役割ですが、公民館のやれることは、学ぶ場所を提供し、市民が学ぶことだと思います。例えば、感染のウイルスは何か と考え、一緒に学んでいくことですね。国立市では 障がいを持つ人と若者たちが一つになって「コロナ禍で今何ができるか」、「感染予防をどうやって行くか」、「公民館でどう活動していくか」等を公民館で学んでいます。

4、オンライン化でのカルチャースクールとの違い 西東京市公運審

公民館で学ぶという事は、ただ学ぶだけではなく、周りとの触れ合い、仲間との一体性を持つことですね。で、これから公民館もオンライン化になるかと思いますが 先生のお話の中で、e ラーニングで学ぶことは カルチャースクール化になるようだが、公民館とカルチャースクールとの違いは、公民館の e ラーニングは「アクションを起こせること」だとおっしゃいましたが、例えばどのような事例があるのか教えていただけませんか。

講師

そのところ、資料の さいたま市西区にある馬宮公民館の岩崎まさみさんの言葉ですが、馬宮公民館では e 公民館として配信しているのですが、「おうちで防災会議」をしたときに終わった後、皆で話し合っって“これからどうやっていこうか”とか「手話講座」、「ヨガ講座」で見終わった後で 体を動かしてみるように 見終わった瞬間に「何かやってみようかなーとか、実際にやってみよう」、「夫と話をする」とか、「皆と相談する」とか、という動作が生まれるかと思います。これがカルチャースクールとの違いだと思います。

5 オンラインがもたらす功罪 小平市公運審

私は こうゆう時代ですから ピンチはチャンスと考え、何かどうゆう方法で皆さんが公民館に来てもらえるか考えているのですが、オンラインがもたらす功罪、それはどうゆう事か オンラインに参加できない人はどうするか

それには ハイブリッド(対面とオンライン両方同時に)でやればいいのか、公民館に来なくても学習ができるようになると公民館はいらなくなるのではないかと。今後コロナが終息した時に、公民館の立ち位置や、評価で公民館にかかる予算の削減とかがでてくるのではと気がかりです。

公民館は 皆と顔を合わせてコミュニケーションをとっていくものと思いますが、今後の公民館はどうなっていくのでしょうか 先生よろしくお願ひします。

講師

ええと大きな問題ですので、もうちょっと他の人の話を受けてから まとめていきたいと思ひます。

他の人はいかがですか。

6、公民館の Web と今後 小平市利用者

たまたま今日の午前中、ズームでの講座を受けていました。今、公民館はハード的に部屋を貸し出していますが、では今後、公民館でも Web 上でアカウントをとって、そのアカウントを貸し出すというのは どうですか、アカウントを貸し出しているところがありますか。

講師

ちょっと それは具体的には どうゆうことですか

小平市利用者

公民館がズームのアカウントを取得して、取得した「ズームをする時間を貸し出す」ことです。私の関係しているあすびあ(社会福祉活動をしている NPO 法人)では そうしたことがあります。公民館でもそういうことがやれないかな、という質問です。

国立市公運審

国立市の公民館では ハイブリッドの講座を5回ぐらいやりました。多分その時はズームのアカウントというのは公民館というより、講師のNHK学園の先生がズームを取得してそれを使ったのだと思ひます。

で、今、脱公民館が話題となっていますが、若い人達は 会社自体がリモートワーク化しています。脱場所化です。公民館ではハイブリッド講座で 栃木県から北海道から参加できるとすると、今後の公民館は 地域性を取るのか、全国的なアプローチをとるのか 開かれた公民館とはどのようになっていくのでしょうか。

小平市公民館職員

今、いろいろなところで リモートワーク、オンラインとか小学校、中学校でもオンライン授業をしています。公民館ではそれをどうやって受け入れていくかが課題だと思ひます。6月から公民館が再開され皆さんが顔を合わせてコミュニケーションを取ったということは、良いことでした。これからはズームとかオンラインとか進んでいくので、高齢者には、そのような講座を設けて SNS やツイッター等も含めてなじんでもらうことです。今までの公民館の課題である、高齢化や指導者不足、サークル員の減少等の問題と新しいデジタル化の問題などがあります。デジタルに強い若い人たちをどう取り込んでいくか 公民館としては今後それらをどう受け入れていくかだと私は思ひます。

7 全てがリモートでできる訳ではない 狛江市公運審

私は狛江市で写真サークルをしております。今時珍しく現像も含めてやっております。それはデジタルでなく暗室がなければできません。換気をしながらやるという事は大変なことです。暗室には2人とか制約があります。陶芸もそうですが、自宅ではできず制約を受けながらも、ここ公民館でやるしかないのです。脱場所というよりこの場所しかないのです。要するに全てがリモートや脱場所、脱公民館.e 公民館にはならないものもあるという事です。以上です。

質問、意見交換後の講師のまとめ

●オンラインは公民館のアウトリーチのひとつである。

- 学習施設全般について言えることではあるが、大学についても、サイバー大学に変わっていくなどの話もある。が、オンラインに全部変わるかということこれは難しいのではないか。例えば理系の研究、実験という場がないと化学の学びはできないだろう。
- また、学びというのは、ただ単に知識の伝達だとか交流ということだけでなく、知識を生産するというようなところがあり、公民館も含めて学習機会・学習施設というものを全てオンライン化してしまうことは、実質的には不可能だと思う。

●アウトリーチとしてのオンラインを考える。

- 日本の学習施設はオンライン化を十分やってきていない、大学も、公民館も博物館もそうで、これをどこまでできるかということをやってみるのは凄く大事なことだろう。
- 紹介した丸木美術館での「オンラインによる鑑賞会」では、自宅からの学生と美術館をつなぐだけでなく、水俣のNGOの方にも入ってもらい共有できた。オンラインなしでは絶対にできないことで、場所を超える脱場所性が、今まで対話することができなかった人だとか、同席することができなかった人たちへのアプローチの可能性を広げた。シニア世代の利用が多い公民館といえども、この可能性は諦めてはいけないものだろう。
- オンラインという技術がもたらすアクセス可能性の広がりや学習施設として、どのように受け止めるか。そして、今まで学習の場に参加できなかった人たちを「参加」につなげていく、深めていく、ここは凄く大事なことだと思う。
- アウトリーチということの参考例に、シカゴ植物園では、スラムに入ってコミュニティガーデンを一緒につくっていく活動があった。関心の薄い人たちのところに入って、植物の大切さや植物の価値を伝える、可能性を広げていくという点で凄く取り組みだった。
- 丸木美術館の鑑賞会では、オンラインで観てもらい、いろんなことを学ぶことができる一方で、「こんなものか」だけで終わってしまうという危惧もある。オンラインを通してさらに学習を深める、じゃあ美術館にいつてみよう、実際に観てみたら何が違うか、といった体験の働きかけをする。つまり、オンラインの可能性を広げながら同時に拠点というものを確固たるものにしていく、そこが大事なのではないか。

●公民館の「場所」性を高める。

- 改めていうと、脱場所化してしまうオンラインに対して、場所そのものが持っている固有性というものを深めていく、そのために様々な資源を持ち寄ることだと思う。公立の施設という点で難しい面も多々あるが、様々な資源をボランティア的に持ち寄り、そして、公民館を豊かにしていく仕掛けが大事ではないか。
- 皆様から大きな宿題をいただいたとも思うので、私も考えてみたいと思うし、皆様もいろんな形でご検討いただければと思います。

アンケート結果（原文のまま掲載）

1 申込者・参加者・アンケート回収数

申込者数	72 人
参加者数	69 人
アンケート回答数	52 人
回答率	75.4%

2 委員部会研修会参加回数

	公運審委員等	職員	市民	計
初めて	6 人	9 人	4 人	19 人
2 回目	4 人	2 人	1 人	7 人
3 回目以上	20 人	5 人	1 人	26 人
計	30 人	16 人	6 人	52 人

3 市町村

昭島市 3 人	国立市 4 人	小金井市 7 人	国分寺市 6 人	小平市 10 人	狛江市 3 人
西東京市 5 人	東大和市 6 人	日野市 1 人	福生市 6 人	町田市 1 人	合計 52 人

4 感想・意見等

公運審委員等

- ・新型コロナ感染対策など、今まで以上のご準備等、ありがとうございました。お疲れ様でした。安藤先生のお話、とてもわかりやすく、公民館にとって大切なものは何か、守るべきものは何で、誰が守るのか…考えさせられる課題も頂いたように感じました。各自治体の経済力も大きな差があるような…脱場所化をどう受けとめるかで、公民館の在り方が変わっていくように感じました。
- ・このような状況の中、ご準備なされた都公連委員の皆様、お疲れさまです。公民館を大切に思う人たちの集いに自分も参加できてよかったと思います。こういう時だからこそできる「学び」を求めて研修会に参加する我々が、地域の学びの種を蒔けるようにしたいと思います。公民館の学び、公民館ならではの学びとは、人と人とのつながりの上に成り立つのですね。
- ・コロナ禍という状況の中、企画をありがとうございました。改めて公民館にある様々な価値について再確認させていただきました。オンラインという新たな可能性を持ちつつ、対面の良さも含めて、ハイブリッド型で、今後の公民館像を模索していく心と、公運審委員として、そして、市民として尽力してまいりたいと思いました。このような形で意見交換はやはり難しいですね。
- ・安藤先生のお話はとても楽しかったです。コロナ禍で、ステイホームになり、制限のある中、今出来ることは考えれば色々あるのだと実感しました。今まで考えつかなかった事を思いつく良い機会でもあったと今になりようやく思えるようになりました。（オンラインや SNS 発信等）今回、改めて公民館の「場所」としての役割が重要なのだと思いました。
- ・安藤先生のお話、意見交換、質疑応答など大変勉強になりました。特にコロナ感染予防対策、リモート関連のお話は考えさせられました。有意義な研修会をありがとうございました。
- ・コロナ時代の中、今後いかに公民館を地域にある大事な場として支えていくか一つの指針を頂いた。

- ・テーマに対して、準備も含めて（レジュメも）分かり易いお話でした。オンラインを活用して、春以降取り組んでいましたが、オンラインで出来ること、出来ないことに「迷い」を持っていましたが、スッキリいたしました。大変参考になりました。オンラインが全てではない！
- ・分かりやすく、貴重なお話でした。オンラインの講座を受けた時のモヤモヤの原因がよく分かりました。メリット、デメリットを理解した上で、学習の機会をなくさない取り組みが大事だと思いました。ありがとうございました。
- ・先生のお話、わかりやすく参加してよかったです。学生、保護者の「生の声」が響きました。公民館の可能性を市民に伝え、考え、未来を描ければよいと思いました。ありがとうございました。
- ・色々な意見をきけて勉強になりました。コロナ禍でマイナスばかり考えていたので、少し希望が持てました。
- ・公民館活動を考えさせられた。
- ・コロナ禍の中、本当にお疲れさまです。貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。
- ・先生のお話から、現状を感じながら、または振り返りながら、新しいアイデアを知ることができ、やってみることができそうです。受身ではなく、アウトリーチの動きにはとても興味があります。場所を学びから、人がふれあい「人っていいもんだな」を感じるためには、リモートでは本能に届かない。同じ空間にいてこそ、「人っていいもんだな」を通じ合える。その機会は公民館でこそできると期待します。「本物を感じることもリアルが良いということ」を求める時代がくる。
- ・公民館の「場所」性は十分認識できています。そこが閉鎖された時「やること」「やれないこと」「やれたらいいこと」それぞれを職員、利用者、そうでない者、それぞれの立場で討論してみた。どうしたら「場所」性をもっと高められるでしょうか？
- ・安藤先生の学生との zoom を利用しての学習の特徴などを聞き、公民館の持っている良さを考えました。ふと心に浮かんだのは「公民館は、人と人とのドラマをじっくり作る場所」と考えるに至りました。そこで出会い、物と話したり、人と話したりして、皆と作るドラマの場所ではないかと思いました。こう考えると、ここはとても重要な市民にとって、なくてはならない場所だと思います。
- ・オンラインの話がとても参考になりました。（オンラインのメリット、デメリットの両方を聞いたので）丸木美術館に行ってみようと思いました。
- ・施設、アウトリーチ、オンライン活用、有料化、改めて考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・安藤先生の『公民館の「場所」性を高める』というキーワードとお話がとても良いヒントになりました。オンラインでやれることもあると思いますが、公民館の本質的機能を保持するための観点だと思います。
- ・ウイズコロナで、前のめりにならず、アフターコロナの時代をも考える必要がないだろうか。新しい方法（zoom、オンライン）が先行しすぎているようです。
- ・オンライン、現場のとりあいの難しさを感じました。
- ・よいお話を聞かせていただき大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすく、前を見ることができました。
- ・色々と参考になる事例を含めた講演が聞いて良かったと思います。質問時間を少し取ってくださったのは良い配慮でした。
- ・「丸木美術館」のオンライン鑑賞会のお話はとても参考になりました。
- ・「丸木美術館」のお話から、全国や世界の人とつながるオンライン化の利点を再確認しました。加えて、それだけではなく、やはり本物にふれることのバランスが大切だと感じました。公民館はオンラインも取

り入れながらも、これからも、人と人が出会い、語り、学ぶことのできる場であるために何が今、できるか考えていきたいです。

- 安藤先生の話の中でe 公民館、丸木美術館の活動は大変参考になった。公民館活動はつどい、学び、つながるという対人関係が基本ですが、この状況下は積極的なアウトリーチ、障がい者、体力的に公民館に来られない人、青年を対象にしたオンライン学習等の具体的な事例を積み上げる事が大切です。但し、対人関係の重要性とアウトリーチとの学習のバランスを取ることが必要だ。
- 安藤先生のお話は良かった。ウイルス、感染症、それに関する小説等について学ぶことをした方がおもしろい。有料化についても質問があったが、問題が起きた時に、どう向き合い、解決していくかということが大事だと思う。
- ピンチをチャンスにという言葉が何人かから出されました。コロナ禍による制約から、新たな取り組み（主にオンライン化）の可能性が広がっていること、一方、場としての公民館ならではの在り方を改めて考えるという両面で勉強になりました。
- 公民館は貧富の格差や性別、年齢、社会的地位とは全く無関係に、誰もが主催者としての自信を取り戻すための最後のセーフティーネットである考えます。オンラインとのハイブリッドにし、会場の密を半分程度にすべきだったと思います。
- タイムリーなテーマで参考になりました。1時間椅子に座り、少しお尻が痛くなりました。休憩以外に2分位でよいので、体操の時間でもあるとよかったです。

職員

- コロナ禍の中であつたが、オンラインではなく、実際に研修会を行ったのは良かった。意見交換が活発だった。
- コロナ禍の中、計画していた事業が出来ず、手探りで、できることを模索しているが、そのような中、場所性を高めること、複数の要素によって学習が成立すること、オンラインではない、公民館の大切さを改めて実感し、励まされたような気持ちだった。
- 色々な市の実例を知ることができ、大変勉強になりました。動画や資料などもあつてすごくわかりやすかったです。
- まずは、こういう公開での学びが今回始まったことを嬉しく思います。安藤先生のお話はその分析など「あつ、そうか〜」と思うばかりで、多くのヒントをいただくことができました。「場所性を高めつつ、社会に入り込む」このフレーズを大事に、頑張りたいと思います。
- 意見交換内容は参考になりました。
- 大変勉強になりました。
- とてもためになる示唆が多くあつた。今後の公民館の在り方について考えさせられた。
- 示唆に富んだお話を伺うことができました。今後の公民館の発信手段について、インターネット、SNSの活用は視野に入れなければならないと思います。同時に「人と人が集い、」学ぶことの必要性を感じ、それをいかに活動の中に残すかといったことが課題だと感じました。
- オンラインも大切であるが、やっぱり公民館という場所が大事。人と人とのコミュニケーションが必要であることの再確認をしました。
- 学習施設でのオンラインの功罪を検討する必要があると思います。
- オンラインの功罪について、両面から考える事が出来る良いきっかけになりました。
- 安藤先生のお話で「アウトリーチとしてのオンライン」がとても印象的でした。「料理しながらでも話を聞いてくれてありがとう」ちゃんと集中して講演を聞いてほしいというのは、上から視線だったのかも

れません…。オンラインの「功」も「罪」も考えていきたいと思います。「利用の歴史の可視化」は国立市でもできていません。検討したいと思いました。

- ・活発な公民館活動、運営への意見が利用者側から聞けて有意義だった。反面、今回のコロナ禍での講座実施方法やオンラインの是非に意見は偏り、前提である「生活や地域への還元がなされる学び」へのアプローチがわかったように思われる。自治体サイドの人間としては、その部分が講座に含まれ、市民に考えていただけるような運営補助を目指したい。
- ・現在、公民館運営審議会で、新型コロナウイルス禍の公民館の役割について審議してもらう方向で話を進めていましたので、今回の安藤先生の講義内容はとても参考になりました。後半の情報交換については、今回の講演会の方向性がずれてしまったようで残念でした。
- ・オンライン教育を肯定的にとらえておられるが、利用者が高齢のため、対応困難なのが現状。また、今の職員には動画製作の能力がない。

市民

- ・コロナ禍の下での公民館活動の在り方について、多角的に整理していただき、ありがとうございました。とりわけ、オンライン化の一方で公民館の「場所」性を高めることで、公民館の方向性を指摘されたことは、貴重なことでした。
- ・「コロナ禍に市民活動は必要か?」「クラスターが発生したらどうするのか?」と考えながら活動しています。公民館の役割を考え、この状況をふまえ、工夫しながら楽しく生き生きと生活するヒントを得ました。コロナの恐ろしさに対する認識の差があるように感じた。
- ・公民館での学習は互いに学び合う（意見を出し合いながら）が大切であり、有意義さを感じてきた。オンラインではどこまで共感したり、考え合ったりが可能であろうか。もっと大切なものがありオンラインでは埋めきれないのでは、という不安感がある。
- ・事例に即した講演であり、分かりやすかった。公民館の「場所」としての意味を考えさせられた。
- ・コロナで規制下、どうすれば場所性を高められるのか、小平市で発言がありましたが、オンライン活用は良いとしても、ネットアクセスが不得手な高齢者に（様々に活動参加が多い）どうアプローチするのか見えてこない。利用者団体と市側との懇談会も必要と思う。また、分館長が1年で異動など、3年程度は腰を落ち着かせる意味で必要ではないか。また「予算がない」とログセのように言われるが、必要な予算、OJTの活用、職員と市民との距離を縮めることもテーマでは。

5 今後について

公運審委員等

- ・コロナ禍に対応した後の反省と前向きな対応を知りたい。
- ・事例紹介と応援・会場（場所）だけ貸す立場から応援する立場になる為に来ること。
- ・公民館に来ない人をどうするか考えていたけど、これからは家に行く（オンライン）という発想みたいなことをもっと知りたい。
- ・幅広い分野での社会教育についての講演を希望します。
- ・公民館の役割は人と人との集いを実現することにあると思います。コロナ禍ではこれが難しくなりましたが、国のデジタル化推進の中で、公民館も外部との通信が可能になると考えます。それらの動き、方向性、仕組み、実現時期等についての研修会を望みます。
- ・引き続き、新型コロナウイルス禍における社会教育のテーマで研修会をしていただきたい。もっともっと、各市での知恵が発信、共有されるんだろうと思います。当市のフルートサークルでは、自ら考案したフェー

スシールドがある等と発表がありました。

- ・多世代間の交流について、このコロナ禍での事例を知りたい。(成功例だけではなく、失敗事例も知りたい) 又、多様化に向けての成功例、失敗事例も知りたい。
- ・地域のコアとしての居場所作りをどのように育てていくか…気づき、ヒントがもらえるような講演会、勉強会がほしい。
- ・多くの情報がとびかう現代社会の中で、公民館の存在意義や、公民館の目的等、専門的な立場の方からお話を伺えたらと思います。
- ・子ども達の居場所と公民館・これから公民館は何をすべきか？
- ・感染予防をたくさんして頂きありがたいです。しかし、マイクのビニール…雑音等もあり、聞き取りにくかったです。(マイク着用のせいもあると思いますが) 間隔を空けて椅子を用意していただきましたが、一人2脚の椅子があると荷物やコート置き場になってよかったです。(用意するのが大変ですよ。すみません) 土足の床に上着、カバンを置いている人が多かったので、せっかく消毒、マスク、検温をしているのに、靴の裏もとても感染しやすいと聞くので気になりました。
- ・講師に佐藤一子氏・朝岡幸彦氏は？
- ・オンライン講座の実例・ねらい(企画)～実践～ふりかえり(課題)で公民館ならではのものがあれば聞きたいです。
- ・公民館らしい取り組み・公民館がやるべきこと・公民館だからこそできることって、どういうことか知りたいです。様々な学習機会が増えている中で公民館に特化したことは何なのかを考えたいです。
- ・公民館活動をもっと市民に広く知ってもらうための情報発信をいかにしていくか
- ・コロナの捉え方も、怖がってばかりではなく、現状を多様に捉えないのか不思議。毎年のインフルエンザよりも弱いウイルスのようなのに、マスメディアの影響が強く疑問を持ちます。
- ・新たな公民館像を模索していくためには、さらに多世代での市民参加が必要と思われるので、今の情勢に合った市民参加の新たな実践事例をたくさん知りたいです。
- ・公民館の役割に学習権も保障がありコロナ禍を通して「場の確保」はとても重要だと思う。どうやって場を持ち続けるか、各市の取り組みを知る機会がほしい

職員

- ・公民館が小学校や地域センターと複合化することについて、公民館と地域センターの目的や役割の違いがなくなるのではないか。
- ・コロナ禍における公民館活動の変容の必要性とその具体的事例について。コロナ禍が終わっても、人々の積極性が失われるだろうかと推測できるが、そのような状況下で公民館は、どう対応すべきなのか？
- ・オープンでの質問だと制御がしづらいため、時間制限は必要かもしれません。
- ・本日の研修会、委員部会の皆様、会場の小平市の方々、お世話になりました。
- ・今回、質問に出た課題を継続して、各市が研究されると参考になると思います。

市民

- ・現状を打破するため、行政としての取り組み、公民館の役割をもっと知りたい。
- ・各市レベルでの研修、懇談の開催が、より身近に感じると思う。
- ・引き続き、このテーマの研修をしていただきたい。